

とこぶん通信

2019年12月号

(表紙の写真) 所沢分館図書館まつりブックリサイクル展会場

11月9日、10日の両日開催されました、図書館まつりの「ブックリサイクル展」会場です。2日間合わせて1000冊以上のリサイクル本をお持ちいただきました。ご来場された方の熱気が伝わって来ました。

★旧町の歴史書散策★⑦

「所澤飛白」

宮本八重子/編

所沢町は、明治時代から織物の集散地として栄え、明治38、9年ごろに全盛期を迎えました。市に出せば飛ぶように売れ、高値が続いた所澤飛白、しかし、その全盛期は長く続きませんでした……。その盛衰を飛白の製造工程とともに興味深く解説しています。586/ト
(郷土資料のため館内閲覧のみです)



所沢分館長です

2019年が終わろうとしています。平成から令和へと元号が変わり、お祭りムードの中で一年が過ぎようとしています。新たな元号令和の出典となりました、『万葉集』の利用が増えました。毎年、所沢分館では秋に古典文学講座を開講していますが、令和元年を契機に古典への関心が高まって来れば、と期待しております。

本年もご利用ありがとうございました。どうぞ、よいお年をお迎えください。



【所沢分館 12月の休館日】

月曜休館日 2日・9日・16日・23日
 年末休館日 29日(日)～31日(火)
 年始休館日 1月1日(水)～4日(土)

♪ ところぶんイベント情報 ♪

一般向け

会場・1F多目的会議室

7日(土)	14:00	高橋玄洋ドラマ上映会「さよなら三角またきて四角」(第5・6話) 全13話
8日(日)	14:00	市民映画会「ブラック・レイン」
15日(日)	14:00	市民映画会「カミハテ商店」

*当日、直接ご来場ください

★今月の一冊★

松本清張生誕110年記念④ 『或る「小倉日記」伝』

第28回(1952年下半年)芥川賞受賞作品。

「昭和15年の秋のある日、詩人K・Mは未知の男から一通の封書をうけとった。差出人は、小倉市博労町二八 田上耕作とあった」の書き出しで小説は始まります。主人公の田上耕作は、生まれながらに障害を抱えています。「この子は、四つになっても、何故か、舌が廻らなかった。五つになっても、六つになっても、言葉がはっきりしなかった。口をだらりと開けたまま涎(よだれ)をたらした。その上、片足の自由がきかず、引きずっていた」が主人公でした。

耕作は身体の手を克服するため鷗外研究に情熱を燃やしました。

「鷗外は明治三十二年六月、九州小倉に赴任した。以来三十五年三月東京に帰るまで、三カ年をこの地で送った。この時代につけていた日記は人に頼んで清書し保存していたが、全集を出すときに捜してみても所在が知れなかった。」

耕作は鷗外の小倉時代を調査することに・・・。

913.6/マ



* 所沢図書館所蔵の本は予約・取り寄せすることができます。

♣ ところ荘工作会 ♣

「紙で作るステンドグラス」

- ・日時: 12月19日(木) 午後2:00~3:00
- ・場所: 老人憩の家ところ荘2階ボランティア室
- ・参加費無料 持ち物はありません
- ・参加申込みはところ荘(☎2922-0681)へ

★ 薮内正幸原画展のご案内 ★

会期: 12月18日(水)~26日(木)

時間: 9:30~17:00 会場: 1階多目的会議室

山梨県北杜市小淵沢町に2004年に開館した薮内正幸美術館より原画をお借りしました。薮内正幸美術館は動物画家である薮内正幸氏(1940 - 2000年)が描いた原画を管理、収蔵、そして展示する施設です。

「薮内自身は生涯絵を習ったことはありませんでしたが、子供の頃から生き物が好きで絵を描き続けた結果、動物画家という道に進みました。生涯をかけて貫いた動物への愛情、尊敬の念が筆を通して描かれた毛1本1本から伝わっていただければ嬉しく思います。」(薮内正幸美術館ホームページより)

